

「菊の花も秋の霜にしぼむ」

弘法大師『性靈集』

ものの凋落も、落ち葉の色づきも、見ようによっては味わいの有る風景に感じられます。

更に、晩秋の焚き火の香りや、霧の緩やかな漂いは、落ち着いた空気を呼び起こします。

深く静かに物思うには、気候的のも良い時期がやってきましたが、彼岸こそ遙か彼方に思いを馳せ、先人の趣向に学び、何とは言えぬその味わい深さに浸って見るなどと思つてはいかがでしょうか。

山藪を好まれたお大師さまは、良く季

節の感覚を楽しまれ、人生そのものに喩えられています。

秋の葉の風を待つ命の様に、はらりはらりと、さり気なく、臨終を迎える準備も、何気なく、気持ち満ちていく事が、きつと望ましいのでしょうか。

涅槃は、寂静であるとお釈迦さまはお説き下さいましたが、悠久の中で、多くの求道の志が、そのお言葉に臨んで来られました。

こころ静かに、秋の彼岸会を丁重にお迎えしましょう。

平成二十七年葉月

南山 沙門 修詮記